

ひろば

吹田ホスピス市民塾会報誌

Vol.27

第27号 2018年5月12日発行

吹田ホスピス市民塾

発行者：小澤和夫

吹田市藤が丘町 27-1-405

TEL/FAX：06-6388-6257

E-mail：ozak200@nifty.com

URL：suita-hosupisu.jimdo.com

2017年度年次総会、提案通り決定

3月24日(土) 14:30~16:00 デュオで開催、すべて提案通り決定されました。

詳細は議案書をご覧ください。なおその後30分懇談会を持ちました。

13年目を迎えて

本年8月に設立13年目を迎えます。これまで「がんになっても安心して暮らせる吹田のまちづくり」を目指して活動してきました。お陰さまで「よくやっている」と評価してくださる方もありますが、「ありがたい姿…目標・夢」からは、まだまだ遠いです。それだけに、多くのがん患者・ご家族のために「活動のし甲斐」があるし、皆さま方のご理解とご支援を頂きながら、努力を重ねていかねばと考えています。

中期目標を目指して、次のようなことを大切に活動を進めていきますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 「吹田在宅ケアネット」の強化

現在、医療者を中心に（市民塾からは3名の世話人が参加、催事には多くの会員が参加）11年間、年2回の、世話人会・研究会を重ねてきました。高齢化が待ったなしであること、人生の最終段階で多くの市民の在宅ケアの希望が多いことから、ネット作りと運用システムの整備を急がねばなりません。一層の活動強化が望まれます。

2. 市の積極的な取り組みを期待

後藤市長はマニフェストで「がん」を取り上げてくださった最初の市長です。大きく期待をしています。'16年4月新設の「健康医療部」は「在宅ケア」を軸に進めていて、「がんには特化しない」とのことですが、在宅ケアの大切な業務の一部として是非、「がん患者さんの在宅ケア」にも目を向けて頂きたいと希望します。

数年後予定されている中核市移行の際には「吹田市がん対策推進条例」と「同推進計画」の実現を期待しています。

3. がん患者・家族の皆さんとの交流促進

現在、3か所で月4回10時間、交流の場を設けています。私どもはピアサポーターとして傾聴を基本にしながら、必要情報の提供やお見えになる方の不安をしっかりと伺いし、皆さんはそんな中から不安を解消されたり、お考えをまとめていけます。まだまだ不十分な点はありますが、それなりにお役にたってきていると信じています。

目標は「10か所」です。少しずつ増やして行って、多くの皆さんが10~20分以内に気軽にお話に来ていただけるようになると思っています。

(小澤)

吹田在宅ケアネット(第22回研究会)開催

4月21日(土)14~16時、千里山コミュニティセンターで開催。約50名が参加。

テーマ:「自宅でピンピンコロリするために大切な事~これからの事、話し合えていますか?」

講師:さくらいクリニック(尼崎市) 桜井 隆氏
大阪北ホームケアクリニック(大阪市) 白山 宏人氏

会場とたくさんの会話しながら、軽妙なやり取りで笑いがあふれる会となりました。

私と意見が違うところは…

[講師の考え方]

- ①2025年問題~「病院で最期を迎えるのは難しい」と言われるが、本当にそうなのか? 政府が、財政上の問題で言っているだけではないか?
- ②全国的に、在宅ケアの人が増えない。

[私見]

- ①今後の高齢者の増え方から見て、何も手を打たなければ、「病院では死ねない」時代が来る。また、多くの患者さんが過ごしている療養型の病院での最期は、緩和ケアが不十分で患者にはつらいのではないか。
- ②在宅ケアの希望者は多いのに、増えないのは、医療者サイドの体制が不十分な事もあり、患者が知らないのと信頼できないからではないか。

医療者と市民の考え方のギャップをどのように埋めていくか…大きな課題だと感じました。

皆さんは、どうお考えでしょうか。

(小澤)

『第22回吹田在宅ケアネット総会に参加して』

4月21日土曜日千里山コミュニティセンターで総会が開催された。

テーマは「自宅でピンピンコロリするために大切なこと~これからのこと話し合えてますか?~」というもの。

尼崎市で開業されている“さくらいクリニック”の桜井医師と、“大阪北ホームケアクリニック”の白山医師との漫才さながらの掛け合いで話が進められた。

まずは2025年問題について。

「将来、病院のベッドが足りなくなると本当に思いますか?」

「何とかならんじゃないの?例え足りなくなるにしても、だから在宅を選ぶのではなく、自分がそうしたいと思って在宅医療を選ぼうよ。」

実は在宅医療を知ってもらうために、自分たち医師(メイシアターの講演会に来ていただいたことがある長尾先生も出演!)やナースなど医療者で演劇公演もしているとのこと…第3回目の公演が今年10月6日クレオ大阪であるそう。

桜井医師が話していた言葉で印象に残ったものがある。

「在宅医療は患者本人を交えないと意味がない。本人の希望通り、本人の価値観を尊重することが一番大切。そのために市民はもっと在宅医療について勉強しなくてはならない。」

そして吹田在宅ケアネットについて苦言もいただいた。

「参加者に市民が少ないんじゃないの?医療者ばかりで集まるのではなく、もっと非医療者も入らなくてはいけないよ。」

意見交換して、ぶつかりあうことが「調和」なのである。ぶつかりあわないと「調和」できない。最後は難しい話になったけど、吹田在宅ケアネットが医療者だけでなく、もっと広く市民に知られる存在になることを願っている。

(田内)

男(ひと)と女(ひと)のフェスタ 2018 inすいた

(千里市民センター) 2月24日(土)

講演会:「男子厨房に入ってみたら～
料理と男女共同参画～」

講師:石倉 文信氏

団体・グループ活動展示:

デュオでの活動グループの中の6グループが展示。
2年に1回の行事で、今年はメイシアターが改装中なので、千里市民センターで。当市民塾も毎回参加。リーフ、チラシ、冊子類を無料配布。約60名の市民さんとお話を。

吹田まちづくり市民塾連絡会、共同展示

(千里市民センター 2階ロビー)

3月12日(月)～16日(金)

毎年の行事。10グループが参加。当市民塾は、リーフ・チラシ・冊子類の無料配布を。

フォーラム「がんと生きる」

～こころとからだ 私らしく～

(大阪国際交流センター大ホール/定員700名)

主催: NHK厚生文化事業団、読売新聞社他

2月25日(日) 13:00～15:30

大阪がん患者団体協議会に、ブースでの展示の案内があり、当市民塾など10グループが参加。ポスターの前で、リーフとチラシを配布。約50名の皆さんとお話を。

大阪がん団体協議会総会

(大阪国際がんセンター中会議室 出席17団体)

3月14日(水) 18:00～20:00

議題: ①次期世話人・事務局の選出 ②来期事業計画の検討 ③会則・内規の改正 ④会計報告 ⑤名簿更新 ⑥パンフ、ポスター作製 などについて審議、決定された。

がん検診セミナー(梅田 オーバルホール)

1月21日(日) 13:00～16:30

主催:大阪府・大阪市

講演:中山富雄氏(大阪国際がんセンターがん対策センター疫学統計部部長(当時))

伊藤ゆり氏(同 主任研究員)

清水 健氏

(一般社団法人清水健基金 代表理事)

当会より4名参加。

平成29年度吹田市地域医療推進 市民シンポジウム

(吹田市勤労者会館)

2月3日(土) 13:00～16:00

基調講演:「地域医療構想・医療計画が求められているのは何故か」—今 日本が直面する危機—

講師:奈良県立医大教授 今村 知明氏

シンポジウム:大阪府吹田保健所谷口所長など8人。

当会より2名参加。

市民公開講座—大阪重粒子線治療開院記念— 「切らずに治す、がん重粒子線治療」

(グランフロント大阪)

2月11日(日) 13～15:30

主催:公益法人大阪国際がん治療財団・大阪重粒子線施設管理株式会社

講師:国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

放射線医学総合研究所所長

野田 耕司氏 他

「看取り」での経験を語る会

(兵庫県私学会館)

2月18日(日) 13:30～17:00

主催:公益財団法人神戸国際医療交流財団

講師:神戸国際医療交流財団代表理事

後藤 章暢氏 他。

当会より2名参加。

第22回関西がんチーム医療研究会

(大阪科学技術センター)

3月3日(土) 9:00～18:00

主催:同研究会他

大腸がんシンポジウム(常翔ホール)

3月10日(土) 13:30～15:45

主催:中外製薬(株)・産経新聞社

講師:大阪医療センター副院長

関本 貢嗣氏 他

「がんと就業」シンポジウム ～治療と仕事の両立支援～

(ドーンセンター)

3月15日(木) 13:30～16:30

主催:大阪府

講師:大阪国際がんセンター副院長

東山 聖彦氏 他

『 J-PALS WEST 2018 』に参加して

2018年3月18日

「J-PALS WESTに参加しませんか？」という会長の呼びかけに手を挙げたのは、会長、私を含めて3名。

J-PALS WESTとは様々な疾患の患者団体が疾患や団体の枠を超えて、団体同士が必要な情報の共有、建設的な対話を通じてネットワークを構築する場として活用し、学びを各団体の活動に役立てることを目的に年1回開催されている。

私は初めての参加であったが、パーキンソン病、うつ病、クラブ病など本当にさまざまな疾患の患者会の方が参加されていた。

きっと他にも、もっとももっとたくさんの疾患の患者会が存在するのだろうなと想像する。

今回、改めて患者会というものの意味を考えた。

自分が病気になり、それが治癒困難な病気である時。その不安はとて大きいものだろう。家族、友人にはその不安、悩みはわかってもらにくい。

そんな時に同じ病気の人と話して、不安や悩みを共有できる。わかってもらえるという安心感。どんなにインターネットなどが普及しても、顔の見える関係の大切さはずっと変わらないということを実感した。

さらに、自分自身も大変なのに、同じ病気の方の役に立ちたいという患者会の方の熱い思いに感謝した1日であった。

(田内)

お 知 ら せ

「南千里がんサポート」の開設

2018年7月より、千里ニュータウンプラザ(阪急南千里駅直結)6F「ラコルタ」会議室にて、月1回第2金曜日(原則)18:00~20:00「南千里がんサポート」を開催します。

場所もこれまでになかった市内中部で、また時間帯も初めて夜間となる新しい窓口です。

第1回7月13日(金)18:00~20:00当市民塾ピアサポーターがお待ちしています。お気軽にお越しください。

図書館に当会資料を設置

吹田市内計5か所の図書館(中央・千里・ちさと・さんくす・駅前)に当会のリーフレット・チラシを置いて頂ける事になりました。広報の更なる効果が期待できそうです。

おしゃべりサロン

去年9月から開催の「おしゃべりサロン」今年度の予定をHPにアップしています。色々なレクリエーションをしながら交流タイムです。会員の皆さまも気軽に参加してくださいね。

情報コーナーの移転について

市役所の情報コーナーの場所が先月から変わりました。ロビー横から奥の総務室前に移転しています。お越しの際はご注意ください。



新連絡網開設について

会員さんへこれまで以上にタイムリーに情報をお知らせするため、昨年より新しく連絡網(メーリングリスト)を開設しています。引き続きメンバーを募集しています。

詳しくはこちらまで

<ML担当:松永>

メール: m.fyty2@gmail.com

電話: 090-9716-5847

「吹田ホスピス市民塾」のネーミングについて

(小澤)

先日の会合で、「当市民塾のネーミングは、どういう意味？」というお尋ねがありましたので、これまでの経緯を以下に記します。

1. スタート時の名前：「終末期・在宅ホスピスを考える市民塾」(2006. 8. 5)
由来：私が大阪市のボランティア養成講座(2H×20回)に参加した時、最も強いインパクトを受けたのは、神代医師の講義・・・「亡くなっていく多くの方が大変つらい思いの中で…が、実情」でした。こうした問題を解決したいというのが、私が市民塾を立ち上げた直接の由来です。
2. 改称：吹田市の2年間のお世話が終了した時、名称が長くて分かりづらいことなどから、現在の名称に改称(2008. 8)、今日に至っています。
考え方：「ホスピス」という言葉をホスピス病棟(建物)と考えずに、「人生の最終段階を穏やかに過ごせること」と考え、すべての病気をと考えると大変大きくなるので、比較的対応しやすい「がん」に絞って活動したい。その延長上に、すべての病気がある。
3. 「ホスピス」という言葉：上から目線での言葉だということで、最近(特に外国では)、使われなくなっているのご意見もありましたが、日本でそうしたご意見を頂いたことはありません。また活動上支障があるとは考えないので、当面はこの慣れ親しんでいる名称で如何かと考えています。

ホスピスとは～Wikipediaより由来

元々は中世ヨーロッパで、旅の巡礼者を宿泊させた小さな教会のことを指した。そうした旅人が、病や健康上の不調で旅立つことが出来なければ、そのままケアや看病をしたことから、看護収容施設全般をホスピスと呼ぶようになった。教会で看護にあたる聖職者の無私の献身と歓待を「ホスピタリティ」と呼び、そこから今日の病院を指す「ホスピタル」の語がでた。

近代以降ホスピスの歴史

アイルランドの修道女 マザー・メアリ・エイケンヘッド(慈善修道女会・カトリック創立者)は19世紀にダブリンに(ホスピスの原型と思われる)「ホーム」を建てた。20世紀に入り、治療の当てがなく、余命いくばくもない患者の最後の安息に満ちた時間をケア(ターミナルケア)する施設としての近代ホスピスが、イギリス、アイルランドから始まった。1967年、セント・ジョセフ・ホスピス(ロンドン)で学んだ女医のシシリー・ソンドースは、セント・クリストファー・ホスピスを建設、緩和ケアを基本とした近代ホスピスの基礎を作り、世界的な広がりの先駆けとなった。なお、アメリカ合衆国では在宅ホスピスが中心である。

日本のホスピス

日本で最初のホスピス・ケアを提供する病床は、大阪の淀川キリスト教病院に。独立した病棟としてのホスピスは、1981年の聖隷三方原病院(浜松市)の末期がん患者などのためのホスピス(緩和ケア病棟)開設が日本で最初。両病院は1990年4月25日に日本で初めて緩和ケア病棟として承認を受けている。

ホスピスの種類

1. 病院内病棟型(病院内でホスピスを行う病棟あるいは、階を定めて行うもの)
2. 病院内独立型
3. 完全独立型(ホスピスのみを行う施設 他の診療科を持たないため、緩和医療以外の具体的な治療を行わない)
4. 病院内緩和ケアチーム(病院内に緩和医療を行うための専門家を用意し、患者からの依頼などによって主治医とは別に、緩和医療を行う)
5. 在宅ホスピス

定期開催のお知らせ

何れも申込み不要・無料

定例会

男女共同参画センター デュオにて

5月 12日

6月 9日

7月 14日

8月 4日

いずれも土曜日 13:30 ~15:30

— どなたでもご自由にご参加下さい。

患者・家族会 ひまわりの会 (遺族会)

男女共同参画センター デュオにて

(会場は別にとっています)

5月 26日

6月 23日

7月 28日

8月 25日

いずれも土曜日 13:30 ~15:30

— 突然のがんの告知でどうしていいかわからない方、現在治療中だけど生活の不安をどこへ話したらいいかわからない、家族のがんで悩まれている方、一人で悩まずお話してみませんか?

終了後「おしゃべりサロン」を開催しています。

編集後記

新年度がスタートし、また新たな活動の範囲も増えました。一人でも多くの会員の皆様
が活動に参加して頂ければ心強い限りです。今年度もどうぞよろしく願いいたします。

会員の皆様へ～お誘いとお願ひ

会員の皆様のご参加をお待ちしております。

ご意見・ご希望もお聞かせ頂き、ご協力ください。

★掲載可能な“みなさまの体験記”を募集しています。

★会報誌の印刷、発送のお手伝いできる方、ご連絡下さい。

会員を随時募集しています。

リーフレットのご入用の方は役員までお知らせください。薬局などにも置かせていただいております。

かんじゅうで暮らしを
豊かにする
吹田
ホスピス
市民塾
活動のご案内

デザインが新しく
なりました!

〒590-0001 吹田市 吹田市民病院

吹田がん情報コーナー

吹田市役所 1 階にて

5月 10日、24日

6月 14日、28日

7月 12日、26日

8月 9日

いずれも木曜日 13:00~16:00

後援：吹田市・吹田市民病院

南千里がんサポート

市民活動公益センター ラコルタにて

7月13日(金)

8月10日(金)

いずれも金曜日 18:00~20:00

— がん患者さん、ご家族及び一般市民の皆さんに、がんに関するいろいろな情報をお伝えします。

がんサポートカフェ

栄えるカフェ in すいたにて

5月 18日

6月 15日

7月 20日

8月 17日

いずれも金曜日 14:00~16:00

— がん患者さん及びご家族と、それをサポートする方々が集う交流の場です。

— がんになっても安心できる吹田のまちづくりを —

吹田ホスピス市民塾

H P <http://suita-hosupisu.jimdo.com>

ブログ http://blog.goo.ne.jp/mangopurin_2013

